

令和8年度 出前県庁しごと談義 テーマ一覧

①こども・子育て	2
②教育	2
③文化・スポーツ	3
④健康・医療・福祉	3
⑤スタートアップ	5
⑥人材活躍・共生	6
⑦インフラ・県土強靱化	7
⑧まちづくり・交通	9
⑨農林水産	10
⑩産業・GX	12
⑪観光	13
⑫環境	14
⑬人口減少対策	15
⑭その他	15

●テーマ選択のススメ●

出前県庁しごと談義のテーマは

**「富山県総合計画-幸せ人口1000万
～ウェルビーイング先進地域、富山～を目指して」**

に基づき設定しています。

テーマを選択するにあたり、ぜひご参照ください！

(右の画像をクリック)

【New】・・・今年度新しく設定したテーマです

【若い世代にもおススメ】・・・若い方にもオススメのテーマです



① こども・子育て			
番号	テーマ	内容	担当課
①-1	児童虐待の防止	児童虐待が深刻な社会問題となっています。本県でも、全てのこどもが健やかに成長できるよう、社会全体でその防止に取り組んでいます。 本県における児童虐待の現状や、児童虐待対策について説明します。	こども家庭室
①-2	里親制度	こどもの成長には、家庭で暮らす時間や経験が大きな役割を担っていますが、様々な事情で家族と暮らすことができないこどもたちがいます。 こうしたこどもたちを自分の家庭に迎え入れて育み、健やかな成長をサポートする「里親制度」について説明します。	こども家庭室
①-3	【若い世代にもおススメ】 青少年を取り巻く有害環境	本県では、青少年の健全育成施策として、有害図書等やインターネット上の有害情報等から青少年を守る取組み、深夜営業施設等に対する規制等を行っています。 青少年を取り巻く有害環境の現状や「富山県青少年健全育成条例」の規制内容等について説明します。	こども家庭室
①-4	ヤングケアラーの支援	「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこどものことで、県が行った調査では、富山県内にもヤングケアラーのこどもたちが存在しています。 責任や負担の重さによる影響や、富山県内の現状、支援に関する取組みについて説明します。	こども家庭室
①-5	【New】 【若い世代にもおススメ】 こどもまんなか社会の実現に向けて	すべてのこどもがウェルビーイングで成長できるこどもまんなか社会の実現を目指し、令和8年4月に「富山県こどもまんなか条例」を制定しました。この条例で規定しているこどもの権利や、こども支援のための基本的な取組み、こどもの不安や悩みを解決するためのこども支援委員会等について説明します。	こども家庭室
② 教育			
番号	テーマ	内容	担当課
②-1	高校進学の意味	高校生活の場は、自らの進路を決定するとともに、自立した社会人として、心豊かにたくましく生きていくための基盤を培う重要なものとなっています。 外国人生徒に対して、高校進学の意味や高校入学者選抜制度について説明します。	教育みらい室
②-2	インクルーシブ教育システムの構築	インクルーシブ教育システムの充実に向け、障害のある子供と障害のない子供が互いの違いを認め、尊重し合う心を育てる教育の在り方や、環境整備、合理的配慮の提供の在り方などについて説明し、共に考えます。	教育みらい室
②-3	地域と学校の連携・協働	子どもたちが同年代の仲間や大人たちとふれあう機会が減少するなど、地域の教育力の衰退が懸念されています。 放課後や週末等における体験・交流学习など、地域の皆さんの協力のもとで行っている子どもたちの学びや成長を支える活動について説明します。	生涯学習・文化財課
②-4	家庭・地域の教育力の向上	日々の子育てやちょっとした悩みについて親同士が気軽に話し合える「親学び講座」の実施など、家庭教育を支援する取組み、また、公民館でのデジタルや体験活動の推進など、地域の教育力向上について紹介します。	生涯学習・文化財課
②-5	学校における食育	児童生徒の健全な食生活の実現のため、本県では積極的に食育を推進しており、小中学生の朝食摂取率は高い水準にあります。 栄養教諭等の活動状況をはじめとした、学校における食育の取組を紹介します。	保健体育課
②-6	子どもの体力向上	子どもの体力・運動能力は、長期的な低下傾向に歯止めがかかってはきたものの、ピークであった昭和60年頃の水準には達しておらず、運動する者とならない者との二極化が進んでいます。 幼少期からの子どもの運動習慣の定着や体力向上のため取り組む本県の事業を紹介します。	保健体育課

③ 文化・スポーツ

番号	テーマ	内容	担当課
③-1	富山県の文化振興	本県では、芸術文化活動が大変活発に展開されており、分野や部門を越えて幅広い参加を目指す「県民芸術文化祭」や「越中アートフェスタ」、「富山県美術展」などに多くの県民が参加しています。 また、美術館や博物館、文学館は、資料の収集、展示、教育普及等の役割を担い、地域の文化振興の拠点となっています。 文化活動への幅広い県民の参加、美術館や博物館、文学館の取組みなど、本県の文化振興施策について紹介します。	文化振興室
③-2	富山県のスポーツ振興	本県では、スポーツ習慣の定着を図るため、県民誰もが気軽にスポーツに参加できる機会づくりを進めています。 また、富山県関係のアスリートの活躍は、人々に夢と感動を与えるなど、スポーツへの関心を高め、活力ある健全な社会の形成にも貢献するものです。 県民のみなさんがスポーツに親しむことができる環境の充実や機会の創出、全国や世界の檜舞台で活躍できるトップアスリートの育成を目指す競技力向上対策や官民一体でスポーツを通じた関係人口の創出や地域活性化を推進する県版スポーツコミッションについてなど、本県が取り組む施策の概要を説明します。	スポーツ振興課
③-3	富山県の文化財	本県には、世界遺産「五箇山合掌造り集落」をはじめ、国宝「瑞龍寺」や「勝興寺」、国の重要文化財「常願寺川砂防施設」やユネスコ無形文化遺産に登録された3つの曳山行事など多彩な文化財が数多くあります。こうした文化財をまちづくりに活かしつつ地域社会で継承していくため、県では、令和3年3月「富山県文化財保存活用大綱」を策定しました。 大綱に記載したこれからの富山県の文化財の保存と活用の基本的な方針や取組みを通して、伝統ある地域文化の継承と文化財を活かしたまちづくりやふるさとづくりについて説明します。	生涯学習・文化財室
③-4	部活動の地域展開	休日の部活動の地域展開に向けた国の方向性や県の取組みについて説明します。	保健体育課

④ 健康・医療・福祉

番号	テーマ	内容	担当課
④-1	とやま型地域共生福祉の推進	少子高齢化や核家族化に伴い、高齢者、障害者、子育て中の人などを地域ぐるみで支えあう体制の充実が求められています。 地域で支援を必要とする人に地域住民自らが個別にサービスを提供するケアネット活動や地域の様々な福祉ニーズに対応する富山型デイサービスなどについて説明します。	厚生企画課
④-2	介護保険	高齢化の進展に伴い、要介護高齢者の増加、介護期間の長期化など、介護ニーズはますます増大しています。一方で、核家族化の進行、介護する家族の高齢化など、要介護高齢者を支えてきた家族をめぐる状況も変化しています。 高齢者の介護を社会全体で支え合う上で重要な介護保険の仕組み、利用方法や保険料等について説明します。	高齢福祉課
④-3	認知症にやさしい地域づくり	令和6年1月に認知症基本法が施行され、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる地域づくりがより一層求められています。 認知症に関する基礎知識や認知症の人との接し方のポイント、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを推進するための取組みについて説明します。	高齢福祉課
④-4	在宅医療・訪問看護の推進	県政世論調査によれば、県民の約7割が、介護が必要になった場合でも、自宅や住み慣れた地域で生活を続けたいと希望しています。 住み慣れた地域で安心して暮らすための在宅医療や訪問看護サービスなどについて説明します。	高齢福祉課
④-5	障害への理解の促進 ～障害を理由とする差別の解消に向けて～	障害のある人一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会の実現には、障害そのもの及び障害のある人への理解の促進が重要です。 どのようなことが差別にあたるのか、どのような配慮ができるのか等、また本県が行う支援策について説明します。	障害福祉課
④-6	発達障害	自閉症など発達障害については、近年、本人や家族等からの相談や支援ニーズが増えてきており、行政や福祉施設など関係機関が連携し、支援の充実に取り組んでいます。 発達障害の特性や現状、支援施策等について説明します。	障害福祉課
④-7	医療的ケア児等施策	令和3年9月に医療的ケア児支援法が施行され、医療的ケア児やそのご家族への支援の充実が求められています。 また、医療的ケア児等には、保健、医療、福祉、教育などの様々な分野において、その状態に応じた個別的、専門的な支援が必要です。 支援の制度やその利用方法等について説明します。	障害福祉課

④-8	手話の普及等	本県では、平成30年4月に富山県手話言語条例を施行し、手話が言語であることなど手話に対する理解やその普及、手話を使用しやすい環境整備の促進を図っています。 条例の内容や手話の普及等に関する施策などについて説明します。	障害福祉課
④-9	障害者・障害児施策	障害者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、身近な地域での生活基盤の整備やサービス提供体制の充実をさらに推進していく必要があります。 障害者・児を支援する法制度の仕組みや施策の内容について説明します。	障害福祉課
④-10	骨髄バンク事業について	白血病等の血液疾患は骨髄移植でないと治療できない場合があり、骨髄バンクは、骨髄を提供していただけるドナーさんと移植が必要な患者さんを繋いでいます。 骨髄バンク事業の概要やドナー登録について説明します。	医務課
④-11	【New】 【若い世代にもおススメ】 新たな地域医療構想について	医療と介護の複合ニーズを抱える高齢者や認知症高齢者の増加と、同時に、生産年齢人口の減少が一層見込まれる2040年、また、さらにその先を見据えて、持続可能な医療提供体制を構築していく必要があります。 その様々な課題解決を図るものとして「新たな地域医療構想」における考え方や県の取組を説明します。	医務課
④-12	健康寿命の延伸に向けた施策の展開について	本県の健康寿命は、男女ともに短縮傾向にあり、野菜摂取量や運動習慣者の割合など生活習慣に関する課題がみられ、メタボリックシンドロームの割合も高い状況にあります。 県民一人ひとりが「楽しみながら」「継続して」健康づくりに取り組む環境づくりや、正しい生活習慣を知ってもらいメタボ予防につなげるための啓発など、健康寿命の延伸を目指す様々な施策について説明します。	健康対策室
④-13	歯と口の健康づくり	近年、歯や口の健康と糖尿病や高齢者の低栄養、身体機能などの虚弱（フレイル）との関係が明らかになるなど、歯と口の健康が全身の健康づくりの基本であることが改めて認識されてきています。 乳幼児期から高齢期までの生涯を通じた歯科疾患やオーラルフレイル（食べる、話すなど口の機能の低下）の予防など、歯と口の健康づくりに関する施策等について説明します。	健康対策室
④-14	健康は、禁煙・受動喫煙防止から	健康増進法が改正され、受動喫煙対策が強化されました。たばこは、喫煙者だけでなく、特にお子さん等の非喫煙者も、他人の喫煙による煙にさらされる「受動喫煙」によって、肺がんや気管支喘息など健康への影響が報告されています。 たばこの健康への影響と受動喫煙防止対策など県の取組みについて説明します。	健康対策室
④-15	がん対策～がんを知り、がん に克ち、がんとともに生きる～	がんは県民の死亡原因の約3割を占め、その対策が大きな課題となっています。そのため、総合的ながん対策として、がんの予防の強化と早期発見の推進、質の高い医療の確保、患者支援体制の整備を重点的に取り組んでいます。 がんの現状と予防から医療、患者支援まで県が取り組む施策について説明します。	健康対策室
④-16	感染症	県では、感染症の発生・まん延防止を図るため、富山県感染症予防計画に基づき、各種施策に取り組んでいます。 県内の感染症の発生状況や、予防のポイント、県の主な感染症対策の取組みについて説明します。	健康対策室
④-17	食中毒	近年、食の安全に関する県民の関心が高まっています。 最近の食中毒の発生状況とその予防法等について説明します。	生活衛生課
④-18	動物由来感染症	動物由来感染症とは、動物からヒトに感染する病気の総称です。交通手段の目覚ましい発展による人と物の移動や、野生動物のペット化など、人間社会の変化と行動の多様化により、これまで忘れられていた感染症が勢いを取り戻しています。 ペット等から感染する病気についての予防方法等について説明します。	生活衛生課
④-19	動物愛護	犬、ねこなどのペットは、大切な家族の一員、人生のパートナーであり、私たちの生活をさまざまなかたちで支え豊かにしてくれる、かけがえのない存在です。 動物の正しい飼い方やマナーへの理解を深めるための施策など、動物の愛護及び管理に関する現況と取組みについて説明します。	生活衛生課
④-20	HACCP	平成30年6月に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律では、全ての食品等事業者へのHACCP制度化が盛り込まれています。 HACCPは、国際的に認められた食品衛生管理手法です。その内容と現状等について説明します。	生活衛生課

④-21	ジェネリック医薬品・バイオシミラーについて	ジェネリック医薬品・バイオシミラーとは、新薬（先発医薬品・先行バイオ医薬品）の特許が切れた後に発売される、新薬と有効性、安全性等が同等で安価な医療用医薬品のことです。 ジェネリック医薬品等の利用を促進することは、社会保障制度の持続可能性担保や患者の経済的負担を軽減することなどから、その推進が求められています。 ジェネリック医薬品・バイオシミラーの利用促進に関する県の取組みについて説明します。	薬事指導課
④-22	【若い世代にもおススメ】 薬物乱用防止対策	覚醒剤や大麻、危険ドラッグ等の薬物乱用は、健康に悪い影響を与え、周りの人も不幸にします。近年、若年層の大麻事犯の増加などが大きな問題となっています。 大麻や覚醒剤等の不正な薬物乱用の現状とその防止に向けた県の取組みについて説明します。	薬事指導課
④-23	心の健康づくり	社会経済環境の複雑化に伴い、多くの人々がストレスや心の悩みなどを抱えており、不安、うつやひきこもりなどへの対応が求められています。 心の健康づくりやひきこもり支援、依存症対策など心の健康センターでの取組みについて説明します。	心の健康センター
④-24	【若い世代にもおススメ】 食品表示の基礎知識	食品表示は、消費者が食品を購入するとき、正しく食品の内容を理解し、選択するうえでの重要な情報源となります。 食品表示の正しい理解を深めるため、食品表示制度について説明します。	農産食品課
⑤ スタートアップ			
番号	テーマ	内容	担当課
⑤-1	【New】 スタートアップ・創業支援	県では、「SCOP TOYAMA」を拠点とした創業支援や、成長を目指すスタートアップへの伴走支援などにより、年齢やキャリアにかかわらず、意欲ある方が起業にチャレンジできる環境づくりに取り組んでいます。 本県のスタートアップ・創業支援施策についてご紹介します。	地域産業振興室

⑥ 人材活躍・共生

番号	テーマ	内容	担当課
⑥-1	男女共同参画の推進	男女問わず、すべての人がその個性と能力を十分発揮し、喜びも責任も共に分かち合う男女共同参画社会を実現することは、一人ひとりがいきいきと暮らしていくために必要不可欠です。 第5次富山県民男女共同参画計画の内容、男女共同参画の必要性、アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)などについて説明します。	政策推進室
⑥-2	SDGs	富山県は2019年7月にSDGs未来都市に選定され、SDGsの推進に取り組んでいます。「SDGs」の概要をはじめ、本県のSDGsの取組み・未来都市としてSDGs推進に資する取り組みについてご説明します。	企画室
⑥-3	多文化共生のまちづくり (地域における外国人との共生)	県内の外国人住民の増加に伴い、日本人も外国人も安心して暮らし活躍できる地域づくりを進めていくには、相互理解を一層推進する必要があります。 県内の外国人住民の現状と、地域における多文化共生について考えます。	多文化共生推進室
⑥-4	人権擁護	人権は、誰でも心で理解し、感じることでできるものです。しかし、現実の社会では、いじめや虐待、DVやハラスメント、インターネット上でのプライバシーの侵害や差別を助長するような投稿、ヘイトスピーチ、部落差別(同和問題)などが依然として存在しています。 基本的人権やさまざまな人権課題の状況等について説明します。	県民生活課
⑥-5	NPO法人制度	NPO等が法人格を取得することで、法人の名の下に取引等を行うことができるようになり、団体に対する信頼性が高まるというメリットが生じます。NPO法人は全国で現在5万を超え、社会に確実に定着してきています。 NPO法人の設立手続や留意点等について説明します。	県民生活課
⑥-6	ボランティア・NPO活動の推進	近年、様々な分野でNPOやボランティアによる自主的な活動が活発となり、地域づくりや公共サービスの新たな担い手としての期待が高まっています。 ボランティア・NPO活動の推進と協働の取組みについて説明します。	県民生活課
⑥-7	配偶者等からの暴力(DV)の防止	配偶者等からの暴力(DV)は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であるとともに、男女共同参画社会を実現するうえで克服すべき重要な課題です。 県では、配偶者暴力相談支援センターである女性相談支援センターを中心として、関係機関と連携しながら、様々な取り組みを行っています。富山県におけるDV被害者の現状も交えて、県が実施するDVの相談や被害者の保護等の支援について説明します。	こども家庭室
⑥-8	働き方改革・女性活躍	若者・女性に選ばれ、誰もが働きやすい職場づくりを進めています。 そのために必要となる、多様な働き方ができる職場環境づくり、男女間賃金差異の解消、性別や職種にかかわらず育児休業取得の促進などについての本県の取組みについて説明します。	多様な人材活躍推進室
⑥-9	人材確保・活躍	少子高齢化、人口減少社会の到来により、医療・福祉、教育、運輸、農業、建設、公共交通、行政、警察など、県民生活の維持に不可欠なエッセンシャルワーク分野をはじめ、人材不足が一層深刻化しています。 「人が減る」時代を、「人が輝く」転機に。「選ばれる富山」をつくることを目指す富山県の新たな人材戦略に関して説明します。	多様な人材活躍推進室
⑥-10	職業能力開発	働く方々が職業生活の全期間にわたって必要な職業能力を向上させることや、その職業能力が到達した段階ごとに適正に評価されることが重要になっています。 職業能力を高めて適した仕事に就くことを目的とした職業訓練やものづくり企業等の在職者のスキルアップやリスキリングを支援する職業能力開発事業について説明します。	多様な人材活躍推進室

⑦ インフラ・県土強靱化

番号	テーマ	内容	担当課
⑦-1	富山県の危機管理・国民保護について	近年、東アジアの安全情勢は、北朝鮮の核・ミサイル開発、中国の軍事力強化等、多くの要因が絡み合っている複雑化しています。 特に日本海を挟み、北朝鮮と隣接する富山県としては、弾道ミサイルの発射を繰り返す北朝鮮情勢を注視する必要がある、事案発生時には身の安全を守るための素早い対応が求められます。 こういった情勢を踏まえ、弾道ミサイル攻撃等への避難行動対応の説明を含めた富山県の危機管理や国民保護への取組みについて説明します。	危機管理課
⑦-2	防災対策	本県では令和6年元旦の能登半島地震や、令和5年夏の大雨など、大規模な災害が立て続けに発生しており、災害に備えて「防災・減災」の考え方がより一層重要となっています。 本県の防災対策（地震、津波、風水害、原子力、火山等）、過去の災害からの教訓、自主防災組織の活動内容、日頃の備え、防災資機材の使い方などについて説明します。	防災課
⑦-3	消防団活動	消防団は、地域密着型の特別職の公務員で、消火活動をはじめ、災害が起きた際には、住民のいのちと暮らしを守るために活動しています。 消防団の活動や、報酬等の消防団に関する諸制度、消防団への加入促進に向けた本県の取組みなどについて説明します。	消防課
⑦-4	LPガスの安全な使い方	LPガスは環境負荷が低く、家庭や産業用、自動車燃料など生活を支えるクリーンなエネルギーとして期待されています。一方で、LPガスが漏れた場合、室内の低い場所に溜まり、少量でも爆発の危険性があるなど、取扱いに注意が必要です。 家庭や事業所等でのLPガスの安全な使用方法を説明します。	消防課
⑦-5	消費者施策	商品・サービスの多様化や悪質業者の手口の巧妙化により、消費者トラブルの内容が複雑・多様化しています。 県民誰もが消費者トラブルに巻き込まれずに安心して生活を送ることができるよう、本県が取り組んでいる消費者施策について説明します。	県民生活課
⑦-6	みんなですすめる交通安全	令和7年の県内の交通情勢は、交通事故発生件数・死者数・負傷者数が増加し、全死者数に占める高齢者の割合が依然高いことから、高齢者を重点とした事故防止対策が求められています。 県内における交通事故の現状と推進重点などの概要を説明します。	県民生活課
⑦-7	安全なまちづくり	近年、本県の犯罪発生件数はやや増加傾向にあります。また、特殊詐欺やSNS型投資詐欺等の認知件数や被害総額は増加しています。 犯罪の起こりにくい環境づくりを進めるとともに、自主防犯組織などによる地域安全活動の充実など、安全なまちづくりを推進する施策の概要を説明します。	県民生活課
⑦-8	犯罪被害者等の支援	犯罪の被害に遭われた方やそのご家族は、犯罪による直接の被害だけでなく、その後も様々な困難に直面することが少なくありません。 突然訪れた事件や事故の被害からの立ち直りに手助けが必要な方々を支援する「富山県犯罪被害者等支援条例」の概要や関係機関と連携した取組みなどについて説明します。	県民生活課
⑦-9	【New】富山県の水道	水道は、県民の暮らしに欠かせないライフラインとして、生活や経済活動を支えてきました。しかし、水道施設の更新需要の増大や災害への備えの見直しが必要である一方で、人口減少に伴って給水人口や料金収入の減少が見込まれることから、県内の水道事業者等は非常に厳しい事業環境の変化に直面しています。 各水道事業者等の耐震化の進捗状況など、水道の現状や課題について説明します。	生活衛生課
⑦-10	食品安全	産地偽装問題や異物混入、食中毒事件などの発生により、食品の安全性に関する県民の関心が高まっており、食の安全・安心の確保が強く求められています。 食の安全をめぐる最近の動向について説明します。	生活衛生課 農産食品課
⑦-11	伏木富山港の利用促進	伏木富山港は三大都市圏のいずれからでもほぼ等距離にあり地理的な優位性があることや、災害時に太平洋側の主要港の代替機能を果たすることができるなど、優れた特色やポテンシャルを有しています。 コンテナ貨物の集荷の促進、定期航路の拡充・新規開拓への取組みなど、伏木富山港の利用促進に関する県の施策を紹介します。	成長産業推進室
⑦-12	【New】木材利用による防災・減災の取り組み	木材研究所では、能登半島地震や頻発する豪雨災害などの教訓を踏まえ、県産スギを活用した防災・減災に役立つ木製工作物の開発に取り組んでおり、現在開発中の『木質耐震シェルター』と『木製ダム』を現地で解説を交えながらご紹介いたします。	農林水産総合技術センター 木材研究所
⑦-13	【New】富山県産材を使用した『人命を守る耐震シェルター』の開発	令和6年能登半島地震では、木造住宅の倒壊による犠牲が相次ぎ、既存住宅の耐震化が急務となっています。 木材研究所では、大規模改修が困難な世帯に対して、命を守るための「現実的な選択肢」として、費用が安価で施工性に優れた『富山型耐震シェルター』を開発しましたので、実物展示や公開実験の映像を通じ、その強固な構造や安全性を具体的に解説します。	農林水産総合技術センター 木材研究所

⑦-14	農業用水路転落事故について	本県では、農業用水路での転落死亡事故が多く発生しています。その特徴として、約9割が65歳以上の高齢者で、年間を通して、身近で小規模な水路で起きています。 県では事故防止対策の強化を図り、事故の起こらない地域づくりを推進するため、地域にある身近で油断しがちな危険箇所について再確認していただき、転落事故を「自分事」ととらえることが重要であると考えています。転落事故の発生状況や安全対策の取り組みを紹介します。	農村整備課
⑦-15	郷土と農業用水のかかわり	本県の基幹水利施設(ダム、頭首工、排水機場)は、主に農業用の用水供給や円滑な排水を目的としています。洪水の安全な流下をはじめ、浸水被害の防止など県土を保全する防災機能を発揮しているほか、消流雪、防火用水及び環境保全などの多面的機能も有しており、これら機能の健全な発揮は安全・安心な県民生活に不可欠となっています。 これらの基幹水利施設が県民生活を支える社会資本として重要な役割を果たしていることについて紹介します。	農村整備課
⑦-16	とやまの土木	社会資本の整備は、県民の皆さんの「幸せの基盤」である安全・安心な暮らしを支え、富山県の発展の基盤となる重要な役割を担っています。 本県の社会資本整備やそれらを支える建設業振興の取り組みについて説明します。	建設技術企画課
⑦-17	とやまの土木小史	本県は、明治16年に石川県から分県・誕生して以来、治水事業や砂防事業を積極的に進めるとともに、道路や港湾など様々な施設を整えてきました。このように土木の仕事を不断に積み重ねてきた結果、現在では全国トップレベルの「住みよい県」という評価をいただいております。 本県の土木の歴史を明治・大正・昭和・平成・令和の各時代ごとに紹介します。	建設技術企画課
⑦-18	【New】 未来へつなぐ持続可能な インフラマネジメントのあり方	本県の公共インフラは、急速に老朽化が進み、維持管理や修繕・更新等のマネジメントが課題となっています。 「富山県の公共土木インフラの現状と課題」と「橋りょうなどインフラのマネジメント方針の策定」に向けた取り組みについて説明します。	建設技術企画課
⑦-19	これからの道路行政	道路インフラは急速に老朽化が進んでおり、現在の機能を確保するためには、日常の維持管理に加えて長寿命化、さらには更新も必要となります。 「道路はみんなの税金でつくり、維持する」「道路はみんなのもの」「道路の維持管理に興味・関心をもってほしい」県民の皆様にもインフラの将来像を自分事として捉えていただけるよう、今後の人口減少社会においても持続可能な道路行政の実現に向けた取り組みを紹介します。	道路課
⑦-20	とやまの河川とダム	本県は急峻な山岳地帯を流れ下る急流河川が多く、豊かな水資源に恵まれる一方、古くから河川の氾濫により大きな被害を受けてきました。こうした洪水から住民の生活を守り、安全で安心できる地域づくりを進めるため、ダムや堤防、護岸の整備等や関係者が協働して取り組む流域治水を進めています。 本県における洪水被害の歴史や治水事業のハード、ソフト両面での取り組みについて説明します。	河川課
⑦-21	立山カルデラにおける砂防事業	立山カルデラは、火山活動と侵食作用による独特の自然をもつ日本でも有数の大規模崩壊地であり、立山の自然史的にも重要な地域です。一方、多量の崩壊土砂が残留し、常願寺川流域に度重なる土砂災害をもたらしてきたため、日本でも屈指の砂防事業が続けられている地でもあります。 富山平野を土砂災害から守るため100年以上にわたって行われている立山カルデラの砂防事業や世界文化遺産登録に向けた取り組みを説明します。	砂防課
⑦-22	富山県の土砂災害対策	土砂災害は毎年のように全国各地で発生しており、私たちの暮らしに大きな被害を与えています。その一方、新たな宅地開発が進み、それに伴って土砂災害の発生するおそれのある危険な箇所が年々増加し続けています。いつ、どこで起こるか予測が難しい土砂災害から身を守るためには、日頃の備えと早めの避難が大切です。 本県がハード・ソフト両面で実施している土砂災害対策、また、土砂災害の事例紹介を交えた避難に役立つ情報やポイントを説明します。	砂防課
⑦-23	経済・産業・暮らしを支える港湾の役割	港湾の役割と、環日本海・アジア地域のゲートウェイとしてさらなる発展を目指す伏木富山港の現状や脱炭素社会への貢献など、今後の取り組みについて説明します。	港湾課
⑦-24	とやまの運河物語	現在、富岩運河は、人々が散策や運動を行い、各種団体による野鳥観察会やカヌー体験会などに利用されるなど、多くの県民に親しみ、愛される場所となっています。 富岩(岩瀬・住友)運河がこれまで果たしてきた役割などを紹介し、地域に根ざした貴重な水辺空間としての今後のあり方について考えます。	港湾課
⑦-25	富山県の下水道	下水道は、汚水を排除・処理することで快適な生活環境を確保し、川や海などの公共用水域の水質汚濁防止に重要な役割を果たすとともに、近年では市街地等の浸水対策や下水道資源の有効活用への取り組みも期待されています。 下水道の役割や整備状況等について紹介します。	都市計画課
⑦-26	地震に強い木造住宅	これまで県内で地震は多くありませんでしたが、令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、県内でも震度5強が観測され、多くの住宅に被害が生じました。地震に対して準備をしているかどうかで被害の度合いは大きく変わります。県民一人ひとりやその家族の大切な生命と財産を守るためには、住宅の耐震化が必須です。 木造住宅の耐震化、危険ブロック塀の除却等、耐震化のポイントと支援制度のほか宅地の液状化等について説明します。	建築住宅課

⑧ まちづくり・交通

番号	テーマ	内容	担当課
⑧-1	中山間地域の活性化	本県の中山間地域は、豊かな自然や優れた伝統文化など特色ある地域資源を有していますが、人口減少や高齢化の進行に伴い、地域活動等を担う人材不足などにより、集落機能の低下や地域コミュニティの衰退が懸念されています。 中山間地域における地区内外の人材等の力を活用した地域コミュニティ再生や地域資源を活用した取組事例など、活性化に向けた取組を紹介しします。	ワンチームとやま推進室
⑧-2	並行在来線の経営安定	北陸新幹線の開業に伴い経営分離された並行在来線は、地域住民の通勤、通学の足となる重要な公共交通です。県内区間は、県・市町村・民間企業が出資する第三セクター「あいの風とやま鉄道株式会社」が運営しています。 本県の並行在来線対策に関するこれまでの取組状況と今後の見通しについて説明します。	地域交通・新幹線政策室
⑧-3	城端線・氷見線の再構築	城端線・氷見線は、令和6年2月に再構築実施計画が国土交通大臣に認定され、持続可能な路線に向けて新型車両の導入、運行本数の増加、ICカード対応などの利便性・快適性の向上を図ることとしています。 城端線・氷見線の活性化や再構築に向けた取組などについてご説明します。	地域交通・新幹線政策室
⑧-4	富山県地域交通戦略の取組み	本県では、あいの風とやま鉄道や富山地方鉄道、万葉線などの多種多様な鉄軌道に加え、地域の足となる路線バスやコミュニティバス・タクシー等が日々運行しています。これら地域交通サービスのあり方の指針となる富山県地域交通戦略と戦略に基づく取組についてご説明します。	地域交通・新幹線政策室
⑧-5	富山きときと空港	富山きときと空港は、本県が設置・管理する空港として、昭和38年8月20日に供用を開始した全国で唯一の河川敷空港で、国内線2路線、国際線4路線が就航しています。※令和8年3月現在、国際線は運休中。 富山きときと空港の魅力や、機能の充実、利用促進の取組などについて説明します。	航空政策課
⑧-6	【若い世代にもおススメ】 県庁周辺エリアの活用	富山のまちの中心にあり、歴史的資源や水辺、公園空間を備える「県庁周辺エリア」。県では、この県庁周辺エリアの魅力や価値の向上を目指して取り組みを進めています。 「県庁周辺エリアの」の有効活用に向けた県の取組について説明します。	財産管理室
⑧-7	花と緑の地域づくり	うるおいと安らぎを感じる、四季折々の花と緑に満ちあふれる地域をつくるには、広く県民の理解と協力を得て、県民が花や木を育てる楽しさを知り、それが生活の中に定着することが重要です。 花と緑の地域づくりの活動を花壇コンクールの作品などを通して紹介します。	森林政策課
⑧-8	富山県の都市計画	本格的な人口減少・少子高齢化の進行を見据え、都市機能の適正な集積・配置等により、計画的で活力あるまちづくりが必要となっています。 富山駅周辺の連続立体交差事業や土地区画整理事業など、本県の魅力ある都市づくりを目指した取組について紹介します。	都市計画課
⑧-9	富山県の空き家対策	少子高齢化の進展や、ライフスタイルの多様化に伴う核家族化・単身世帯化の進展等により、人が住んでいない家、いわゆる「空き家」は、本県を含めて全国的に増加傾向にあります。 富山県全体の空き家の現状と、県の空き家対策の内容について、説明します。	建築住宅課
⑧-10	とやまの景観づくり・屋外広告物	県内では、県景観条例に基づき、美しい自然景観や散居村などの田園風景の保存、歴史・文化を活かしたまち並みづくりなど、地域の特性を活かした景観の保存及び創造が着実に行われています。 県景観条例を中心に、本県の景観づくりについて説明します。	建築住宅課
⑧-11	【New】 富山型高性能住宅の推進	2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、住宅の省エネルギー化が求められています。 富山型高性能住宅は、国のZEH水準を上回る高い断熱・省エネルギー性能や法基準を超える耐震性能を備え、さらに富山の風土や文化を取り入れた「富山らしさ」を有する住まいの普及を目指す住宅施策です。 富山型高性能住宅の考え方や整備のポイント、県の支援制度などについて説明します。	建築住宅課
⑧-12	【New】 富山地方鉄道鉄道線の再構築 に向けた検討	富山地方鉄道鉄道線の再構築に向け、県東部の広域的な鉄道ネットワークとして検討するため、「富山地方鉄道鉄道線再構築検討会」を設置し、富山県地域交通戦略の考え方に沿って議論を進めています。富山地方鉄道鉄道線の現状などを踏まえ、これまでの検討状況について、説明します。	地域交通・新幹線政策室

⑨ 農林水産

番号	テーマ	内容	担当課
⑨-1	食育	本県では、県民一人ひとりが、食育に関心を持ち、そして食育の活動を実践するよう、「とやまの食」に着目した富山型食生活の普及などに努めています。 富山県食育推進計画の内容及びその推進について説明します。	農林水産企画課
⑨-2	食のとやまブランド(とやまの食材プロモーションについて)	豊かな自然、美味しい水、平野に広がる水田などから生まれる「とやまの食」は、富山県の大きな魅力の一つです。 富山の農林水産物やそれらを使った加工食品等のブランド価値、販路開拓などについて紹介します。	市場戦略推進課
⑨-3	農業の担い手育成	本県農産物の生産を支えるため、効率的・安定的な農業経営を行う集落営農組織など、担い手の育成が重要です。 農業経営の規模拡大や法人化など、担い手の経営発展に向けた育成対策を紹介します。	農業経営課
⑨-4	とやまGAP(適正農業管理)	近年、自らの農業生産活動を客観的に点検するとともに、自然環境の保全も含めたより持続性の高い生産活動に取り組むことが重要となっています。 『より良い農業』のため、「安全な農産物の生産」、「環境の保全」、「農業者の安全確保」等の視点に基づき定められたGAPの理念や取組みについて説明します。	農業技術課
⑨-5	環境にやさしい農業	環境保全に対する社会的関心が高まるなか、農薬や化学肥料を使用しない有機農業など、環境に配慮した持続性の高い取組みがより重要となっています。 農薬の適正使用や有機農業の拡大に向けた取組みなど、環境にやさしい農業の推進について説明します。	農業技術課
⑨-6	農山漁村女性活躍の推進	農林水産業及び農山漁村が発展していくためには、農林漁業に従事する女性が仕事に誇りとやりがいを持って取り組むことが重要です。 女性農業者の活躍促進のための県の取組みやモデル的女性農業者の活躍事例について紹介します。	農業技術課
⑨-7	家畜の病気とその予防	安全で高品質な畜産物の安定供給には、家畜伝染病等の予防対策が重要です。 豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜の病気や予防策を紹介します。	農業技術課
⑨-8	富山の農業を支える基盤整備 ～水と大地を未来へつなぐ～	本県では、生産性の向上や持続可能な農業を目指した基盤整備を行うため、農業生産基盤である農地の大区画化・汎用化や農村地域の防災・減災対策、農業水利施設の計画的な整備更新などを推進しております。 これらの整備は、農業者だけでなく、県民の食・防災・地域振興を支えていることから、本県が進めるスマート農業に対応した基盤整備、高齢化・人口減少への対応や激甚化、頻発化する災害への対応などの取組みについて紹介します。	農村整備課
⑨-9	農作物の鳥獣被害防止対策について	野生鳥獣による農作物被害は、農家の生産意欲の低下や耕作放棄地を拡大させるなど、中山間地域の大きな課題となっており、県では、侵入防止用の電気柵等の設置や捕獲活動への支援を積極的に行っております。 お困りの集落の皆様に対し、農作物被害軽減に向けた予防対策などについてご紹介します。	農村整備課
⑨-10	人口減少下における農村振興について	本県の農村地域では、食料の安定供給はもとより、県土保全等の多面的機能を果たすとともに、豊かな自然や優れた伝統文化など特色ある地域資源を有しています。地域資源の維持管理は、これまで農業者と農業者以外が地域の共同活動等によって支えてきました。しかし、人口減少が進み、荒廃農地の増大や集落機能の低下、共同活動等の実施が難しくなることが懸念されています。 そのため、人口減少に伴い、地域の共同活動に生じる様々な課題に対して、危機感を共有し、内発的な変革が地域から湧き起こるよう、集落(地区)単位の人口動態・人口推計などの地域に応じた情報提供を行い、地域内の話し合いのきっかけとしていただくことや、日本型直接支払制度の活用検討・申請書類作成の支援、農村振興・都市農村交流に係る県の施策などについてご紹介します。	農村振興課
⑨-11	森林資源の循環利用と森づくり	本県の森林は、県土面積の約3分の2を占め、木材生産はもとより、「緑のダム」として県土の保全や豊かな水資源を育むほか、自然とのふれあいの場の提供等を通じて県民の生活に潤いと安らぎをもたらしています。 この貴重な財産である「とやまの森」を育て、主伐を中心とした森林資源の循環利用の取組みや多様な森づくりの取組みについて紹介します。	森林政策課
⑨-12	森林ボランティア活動の支援	森林の適切な保全・整備が森林所有者や山村住民の努力だけでは困難となっているなか、近年、森林ボランティア団体等による森づくり活動への取組みが着実に増加しています。 県民参加による森づくりを推進するため、森林ボランティア等を総合的・専門的に支援するとやまの森づくりサポートセンターの支援活動内容について説明します。	森林政策課

⑨-13	山地災害に備える	近年、山地災害が頻繁に発生しています。これから身を守るため、山地災害のおそれのある危険な箇所(山地災害危険地区)がどこにあるのかを知っておくことは重要なことです。また、土砂崩れ等の兆候や避難の仕方について分かりやすく説明します。	森林政策課
⑨-14	ウッド・チェンジの取組み	県産材を含む木材の需要拡大を図るためには、公共建築物の木造化や内装の木質化だけでなく、住宅や家具、民間施設など、身の回りのものを木製品に変えること(ウッド・チェンジ)が重要で、地球温暖化を防ぐカーボンニュートラルの実現にもつながります。様々な分野での木材の利用により、森林を守り育てる仕組みについてご紹介します。	森林政策課
⑨-15	とやまのさかな	富山湾は温暖な対馬海流と年間を通じて水温1～2℃の冷たい海洋深層水が層をなしています。そこには魚の餌となるプランクトンが豊富に存在し、おいしい魚が育ちます。富山湾の特徴や、とれる魚、豊かな食生活を支える安全で良質な水産物の供給を目指すため、資源管理や栽培漁業等の水産業の振興策を紹介します。	水産漁港課
⑨-16	稲・麦・大豆の新品種	本県では、水稻を中心に麦や大豆についても、新品種の開発を進めています。開発から生産現場への普及に向けての取組みを幅広く紹介します。	農林水産総合技術センター 農業研究所
⑨-17	化学農薬だけに頼らない農作物の病害虫防除	持続的な農業生産を実現するため、農薬を削減できる病害虫の防除法の開発を進めています。開発の状況や実用化された技術について紹介します。	農林水産総合技術センター 農業研究所
⑨-18	とやまのチューリップ	富山県の花「チューリップ」の球根栽培の歴史と多種多様な花色や花形、芳香など魅力的な品種を紹介します。また、野生種など約2100品種ある遺伝資源センターの品種を交配して生まれた本県オリジナル品種の育成方法や国際コンテストで受賞した品種を紹介します。	農林水産総合技術センター 園芸研究所
⑨-19	富山県産果実の魅力	本県では「なし」、「かき」、「りんご」、「ぶどう」、「もも」等の多様な果実の生産販売が行われています。県内果実生産の特徴や果樹研究センターで取り組んでいる技術開発、注目の新品種などについて紹介します。	農林水産総合技術センター 園芸研究所
⑨-20	とやまの畜産	本県では、安全・安心な畜産物の提供や自給率の向上を目的として、養牛、養豚経営において県産飼料や未利用資源(エコフィード)の利用拡大を進めています。この取り組み内容と、高品質な県産畜産物のブランド化の推進事例について紹介します。	農林水産総合技術センター 畜産研究所
⑨-21	とやまの森を守り育てる技術	とやまの森は、県土の面積の約3分の2を占め、豊かな水を育むなど様々な役割を果たしています。この豊かな森を守り育てるための技術や、本県が全国に先駆けて開発・実用化した優良無花粉スギ「立山 森の輝き」について紹介します。	農林水産総合技術センター 森林研究所

⑩ 産業・GX

番号	テーマ	内容	担当課
⑩-1	サービス・データの連携基盤の活用	県では、県民の皆様役に役立つアプリ等(地域通貨、健康促進アプリなど)を連携するサービス連携プラットフォームや、庁内外のデータを効率的に収集・変換・管理して一元的に可視化・提供するデータ連携基盤を活用した取組みを進めています。取組みの意義や県内外の取組事例についてご紹介するとともに、県民のみなさまの生活等に役立つアプリケーションやデータの活用等に関するディスカッションを行います。	デジタル化推進室
⑩-2	マイナンバー制度	平成28年1月からマイナンバー制度が導入されています。この制度は、行政を効率化し、国民の利便性を高め、公正・公平な社会を実現する社会基盤です。制度の概要、利活用方法及びセキュリティ対策等について説明します。	デジタル化推進室
⑩-3	DXの推進	県では、行政手続き(役所への申請や証明書の取得など)のオンライン化や、地域の課題を解決するための実証実験など、デジタル技術を活用した行政サービスの利便性向上や活力ある地域社会の実現に向けた取組みを進めています。このデジタル技術を活用した変革(DX)について、取り組むことの意義や県の最新の事例について説明します。	デジタル化推進室
⑩-4	富山県の医薬品産業	本県には、江戸時代からの300年以上の歴史を有する配置薬業から始まる医薬品産業の歴史があり、現代においては、高い製造・品質管理技術を背景に、国内トップクラスの医薬品生産拠点になっています。「富山のくすり」の歴史と、今日の本県の医薬品産業のあらましを説明します。	くすり振興課
⑩-5	ものづくり産業支援の施策紹介	本県は日本海側有数のものづくり県です。ものづくり産業の発展には、試験研究機関や大学など地域の支援機関と連携して課題解決を図ることが重要です。県や関係団体が実施する支援施策等の主要メニューや取組事例について紹介します。	成長産業推進室
⑩-6	とやまの深層水	「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟が承認された富山湾。その富山湾の300m以深から取水されるのが「深層水」です。この「深層水」は、冷たく、清浄で、ミネラルを多く含んでおり、その成分を生かした飲料や食品、化粧品などの商品にも広く利用されています。深層水についての基礎知識と本県の関連事業の取組み状況を説明します。	成長産業推進室
⑩-7	企業誘致	本県は台風が少なく、豊富な水資源に恵まれているなど、優れた立地環境を有しています。県内経済の活性化につながる、成長性や雇用効果の大きい企業の誘致に向けた取組みを説明します。	成長産業推進室
⑩-8	県内企業のグローバル展開への支援	経済のグローバル化の進展とアジアの成長により、積極的に海外へ進出し、ビジネス展開を図る企業が増えています。アジア地域等との貿易の振興や、県内企業の海外販路開拓支援などの経済交流事業について説明します。	成長産業推進室
⑩-9	産業技術研究開発センターによる技術支援	富山県産業技術研究開発センターは、大正2年の工業試験場としての創立以来、県内企業、特に中小企業の技術力向上と新製品開発を支援するため、技術支援、研究開発技術情報の提供などを通じ、産業の発展に寄与してきました。産業技術研究開発センター(ものづくり研究開発センター、生活工學研究所、機械電子研究所)による県内企業へのさまざまな技術支援の概要と利用方法について説明します。	産業技術研究開発センター
⑩-10	デザインの力で何かわかる?	モノや情報が市場にあふれ人々の価値観が多様化する昨今、デザインが持つ力を活用して地域、企業、商品の魅力をいかに高め、伝えるかが重要になっています。デザインを活用すると何かわかるのか、総合デザインセンターの取り組みや利用方法をご紹介します。	総合デザインセンター

⑪ 観光

番号	テーマ	内容	担当課
⑪-1	「義仲・巴」の魅力発信	本県には、平安時代の武将、木曾義仲・巴御前にまつわる史跡や伝承が数多く残されています。県では、これらを活用した観光振興や地域の活性化等に取り組んでいます。 「義仲・巴」の魅力発信に向けた取組みや他県との連携について説明します。	ワンチームとやま推進室
⑪-2	新たな時代の観光と富山の魅力再発見	新たな時代の観光振興のためには、県民が地元での暮らしに誇りを持ち、富山の魅力を理解することや、地域資源の発掘・磨き上げを行い、富山らしい魅力を創出すること、それらの魅力を自ら発信することが重要です。 本県が「選ばれ続ける観光地」となるため、観光客の満足度を高めるおもてなし、地域づくりについて考えます。	観光振興室
⑪-3	「立山黒部」の魅力	立山黒部アルペンルートや黒部峡谷をはじめとする日本でも類を見ない自然景観に加え、2026年以降に新たな観光ルートとして一般開放・旅行商品化される「黒部宇奈月キャニオンルート」や「立山砂防」など、「立山黒部」の魅力向上と高付加価値化の推進に向けた取組みを紹介します。	観光振興室
⑪-4	海外からの誘客	国際観光の推進には、国・地域ごとの観光ニーズに応じた誘客戦略が重要です。 東アジアからのリピーター確保や欧米豪からの誘客、新規市場に向けた情報発信など、外国人観光客の誘致及び受入態勢の整備について考えます。	観光振興室
⑪-5	富山県内での映画ドラマ撮影誘致の効果	映画やドラマ等の映像コンテンツ撮影の県内誘致には、撮影隊の宿泊や食事などの経済効果に加え、ロケ地としての富山県を国内外へ宣伝し、ロケ地を巡る観光客増による経済効果が見込まれます。 私たちが住んでいる美しい景色を画面を通して一緒に見ながら、永続的に美しい富山をどのようにつくっていくか、一緒に考えましょう。	観光資源活用室
⑪-6	富山のサクラの魅力(富山ゆかりのサクラと名所70選)	本県は、日本列島の中央に位置し、3,000mの標高差や多雪環境など変化に富んだ自然環境を有しており、変種も含めると日本で見られるサクラの野生種の多くが県内で確認できます。 また、県内では新たな品種が次々に発見されるなど、富山はサクラの宝庫ともいえます。 こうした富山のサクラの魅力と名所とともに県中央植物園で展示している国内では富山にしかない英国から導入したサクラを紹介します。	森林政策課

⑫ 環境			
番号	テーマ	内容	担当課
⑫-1	カーボンニュートラル	富山県は2050年カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいます。 カーボンニュートラルとは何か、なぜ目指すのか、どのように目指すのか。また、県民や事業者はどのようなことに取り組みればよいのか。このようなカーボンニュートラル実現に関する情報を説明します。	政策推進室
⑫-2	とやまの水資源	本県は、急峻な山々に源を発する清流が大小300余りの河川となって流れ、環境省の名水百選に全国最多の8か所が選ばれるなど、全国に誇れる豊かで清らかな水環境を有しています。 『とやま21世紀水ビジョン』をもとに「水の王国とやま」の現状と課題、その対応策について説明します。	県民生活課
⑫-3	地球温暖化対策の推進	「2050年カーボンニュートラル」の達成に向けて、社会全体で省エネルギーや再エネの導入に取り組んでいく必要があります。また、避けられない気候変動に対する備えを行う「適応」の取組みも重要です。 本テーマでは、太陽光発電の導入、省エネ家電への買換え、など、我慢することなく脱炭素に貢献でき、かつお得である「デコ活」の取組みや、気候変動に伴い急激に高まる熱中症リスクへの対応について説明します。	環境政策課
⑫-4	3R(スリーアール)の推進 ～リデュース・リユース・リサイクルに取り組みませんか～	私たちの生活に身近なごみ問題。「リデュース(Reduce)」、「リユース(Reuse)」、「リサイクル(Recycle)」の3つの取組み(3R)を推進し、ごみを資源として循環的に利用できる仕組みをつくるのが大切です。 プラスチックの資源循環やレジ袋の削減など、3Rの現状と3Rをより一層推進するための施策について説明します。	環境政策課
⑫-5	「世界で最も美しい富山湾」の保全	近年、マイクロプラスチックをはじめとする海洋ごみは、世界的な問題になっています。 県内でもほぼ全域で海岸漂着物が確認されており、その約8割が県内由来であることから、これを減らすには、河川の上流から下流までの全域で対策を行う必要があります。 富山湾の海岸漂着物の現状とその対策について説明します。	環境政策課
⑫-6	食品ロス・食品廃棄物の削減	日本では、食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が多く発生しており、資源・環境の観点から大きな問題となっています。 県内の食品ロス・食品廃棄物の発生状況や食品ロス・食品廃棄物の削減に向けた施策について説明します。	環境政策課 農産食品課
⑫-7	生物多様性の保全と持続可能な利用	本県の豊かな自然を守るためには、県民自身が生物多様性の大切さを認識し、連携して保全のための活動を推進していくことが必要です。 生物多様性保全推進プランをもとに、私たち一人ひとりが何をすれば生物多様性を守る取組みにつながるかを説明します。	自然保護課
⑫-8	立山外来植物除去の取組み	富山県が誇る国際山岳ルートとして、国内外から年間100万人が訪れる「立山黒部アルペンルート」は、外来植物の侵入が問題となっています。立山本来の素晴らしい山岳景観と貴重な生態系を守るために、県では、外来植物除去の取組みを行っています。 立山における外来植物の問題点や対策について紹介します。	自然保護課
⑫-9	野生生物との共生を目指して	近年、ツキノワグマによる人身被害の発生、イノシシやニホンザル等による農作物被害が発生しており、地域住民の不安が高まっています。 ツキノワグマやイノシシ、ニホンザル等の生息状況のほか、野生生物に関する取組みについて解説します。	自然保護課
⑫-10	地下水の保全	本県の豊富で清浄な地下水は、生活用水や工業用水として、県民の生活基盤を支えるとともに、本県の貴重な風土、自然環境を構成する要素になっており、まさに「水の王国とやま」を代表する県民共有の貴重な財産となっています。 地下水の監視や涵養の推進、地域の活動者「地下水の守り人」の養成、冬期間の地下水位低下対策など、地下水の保全施策を説明します。	環境保全課
⑫-11	富山の気候環境と身近にできる保全活動	本県の気候環境はおおむね良好な状況にありますが、一時的に高濃度のおそれがある大気汚染物質(光化学オキシダント、微小粒子状物質(PM2.5))などへの対応や石綿の飛散防止対策、カーボンニュートラルにも資する取組みなどが求められています。 県内における気候環境の現状と課題、その対策のほか、環境に配慮した運転方法であるエコドライブや宅配便の再配達削減など私たちが身近にできる取組みについて説明します。	環境保全課
⑫-12	水環境の保全と身近にできる水環境学習	本県の水環境はおおむね良好な状況にありますが、豊かで清らかな水環境の保全に向け、新たな水質測定項目への対応、水質汚濁事故の未然防止、水環境保全活動の促進などの取組みが求められています。 県内における水環境の現状と課題、その対策について説明します。また、従来の計測による調査ではなく、「見る、感じる、触る」といった感覚で身近な水辺環境を調べる体験もしていただけます。	環境保全課
⑫-13	【New】 富山県の気候変動と私たちの暮らしの関わりについて	近年、気温の上昇や豪雨の増加等により、私たちの生活にさまざまな影響が始まっています。 今後も気候変動が進行する中、本県でも被害を少なくする「適応策」が重要になります。本テーマでは、これらについてわかりやすく解説します。	環境科学センター
⑫-14	おいしい水のできるまで	本県では、水道用水を高岡市、射水市、氷見市、小矢部市の4市に広域的に供給する水道用水供給事業と県内に立地する企業に豊富な水を安定的に供給する工業用水道事業を通じて、県民のみなさんの暮らしや産業の発展を支えています。 ダムの水から各市へ供給される水ができるまでの、浄水のしくみについて説明します。	企業局(水道課)

⑬ 人口減少対策

番号	テーマ	内容	担当課
⑬-1	少子化対策	県では、子育て支援・少子化対策を総合的に推進するための基本計画を令和6年度に策定しました。 この計画に基づく少子化対策の取組みについて説明します。	企画室
⑬-2	富山県への移住の促進	本格的な人口減少時代を迎え、個性を活かした地域づくりが求められるなか、本県への移住が増加することは、地域経済の活性化につながるほか、県民が自分の住む地域の魅力を再認識するきっかけにもなるなど、大きなメリットがあります。 本県への移住の促進や移住者を呼び込む取組みに加え、新たな担い手として期待される「地域おこし協力隊」の活動を紹介します。	ワンチームとやま推進室
⑬-3	とやまの人口増減	人口の増減は、社会経済の変動と深く関連しており、その実態を的確に把握することは、社会経済の動向を分析し施策を立案実行するために重要です。 現在の人口の年齢別構成、市町村別の状況、この1年間の人口の動きなどについて説明します。	統計調査課

⑭ その他

番号	テーマ	内容	担当課
⑭-1	【若い世代にもおススメ】 若者の県政参画	若い皆さんに県政に参画していただくためには、一方的な広報や待ちの広聴ではなく、県庁職員が皆さんの元へ赴き、コミュニケーションを取ることが大切だと考えています。 SNSによる情報発信の取組みについてご紹介するとともに、参加者の皆さんとの意見交換を行います。「県庁が何をしているか分からない」「県政に興味はない」という方、大歓迎です。	広報課
⑭-2	他県との連携・交流	経済活動や人的交流が県境を越えて活発になるなかで、行政においても様々な課題に対して、周辺自治体等との協力関係を築き、各々の個性を活用・連携させながら広域的に取り組んでいくことが飛躍の鍵となります。 岐阜県をはじめ、隣県を中心とした他県との連携・交流について説明します。	政策推進室
⑭-3	【New】 富山県総合計画	人口減少・少子高齢化など、急速に変化する社会経済情勢に対応し、県民一人ひとりの豊かで幸せな暮らしと本県の持続的な発展を実現するため、令和7年12月、新たに「富山県総合計画ー幸せ人口1000万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜を目指して」を策定しました。 こども・子育てや教育、まちづくり、産業など、総合計画が目指す新たな県づくりについて説明します。	企画室
⑭-4	ウェルビーイングの推進	県では、政策の中心にウェルビーイングを据え、県民の皆さん一人ひとりが自分らしくいきいきと生きられ、幸せを実感できる富山県を目指しています。 県民の皆さんの主観に着目し県独自に策定した「ウェルビーイング指標」や、ウェルビーイングの向上に向けた取組みについて説明します。	企画室
⑭-5	県内市町村の行財政状況	住民に最も身近な基礎自治体である市町村は、独自の創意工夫による地域づくりや多様化する住民ニーズへの対応など、重要な役割を果たしています。 県内市町村の行財政の状況について、各種統計データにより説明します。	ワンチームとやま推進室
⑭-6	【若い世代にもおススメ】 選挙の仕組みや投票参加の意義	選挙における投票率の低下は全国的な傾向ですが、選挙は民主主義の根幹であり、できるだけ多くの皆様に投票に参画していただくことが必要です。 選挙の仕組みや投票参加の意義について説明します。	ワンチームとやま推進室
⑭-7	統計から見たとやま	統計は「社会の情報基盤」として、今日の行政運営や企業意思決定などに必要不可欠なものとなっています。 統計指標から見た富山県の姿の紹介などを通して、統計のもつ意義や役割について理解を深めます。	統計調査課
⑭-8	【New】 【若い世代にもおススメ】 学生向け教材で学ぶ税の基礎	公共サービスや社会資本整備の財源として県税をはじめとした税は重要な役割を占めています。 中高生向けに新しく作成された教材を使いながら、県税を中心とした税のはたらきをわかりやすく説明します。	税務課
⑭-9	土地に関する制度	土地の権利が明確になり、境界トラブルを防ぐ地籍調査や、土地の適正な価格を判断するための地価公示・地価調査等は、土地の安全かつ円滑な取引に資するものです。 土地の境界や地価、土地利用計画等の土地に関する施策・制度について説明します。	県民生活課